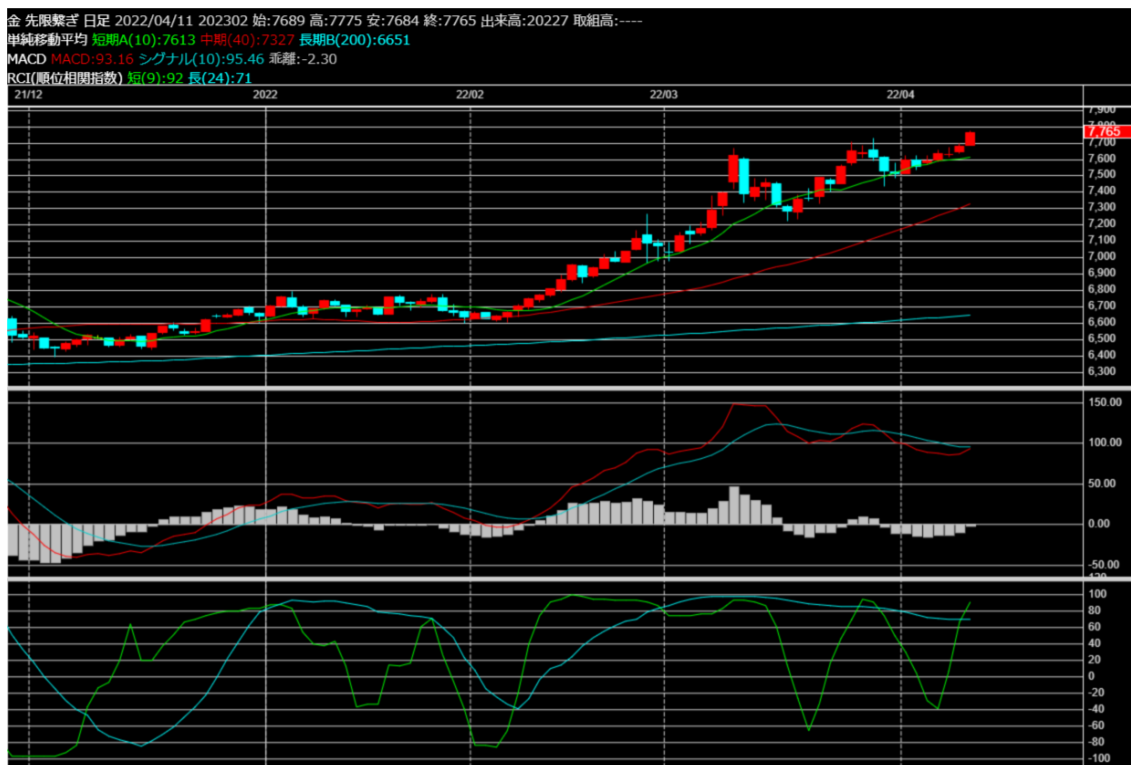


## ＜金標準先物、ECB 理事会を控えて戻り売り傾向に注意・・・＞



(出所：オアシス)

今年の FOMC メンバーでもありタカ派のブロード・セントルイス連銀総裁は「FOMC が今年下期に政策金利を 3~3.25%に引き上げることが望ましいと考える」と言及し、5 月の FOMC では 0.5%の利上げを支持している。またハト派の次期 FRB 副議長のブレynaード理事は「5 月の会合で急速なペースでのバランスシート縮小を開始することで、金融政策の引き締めを続ける」と述べるなど FRB メンバーはタカ派の動きを強めている。そのため週末に債券市場では長期債が売られて 10 年物金利は 2.704%まで上昇している。特に金利を生まない金は金利上昇時には魅力が薄れ、値下がりを行うのが定説であるが、現在はウクライナ情勢を受けた地政学的なリスクの高まりや西側諸国の対ロシア経済制裁処置で、天然ガスを筆頭に石油製品やアルミ、ニッケル、亜鉛、銅、パラジウム、小麦など 27 品目の商品価格が 2022 年の第一四半期で 2 桁から 3 桁の上昇を示すなどインフレ高を押し上げており、NY 金は金利高でも 1920 ドルで下げ渋る展開を続けている。そのため日米の金利差を受けた円安の影響で円建ての金標準先物は世界で唯一高値を更新し続けており、この状況は今しばらく続くと思える。

### ＜テクニカル＞

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD では **MACD** が反転しながら、**シグナル**を上回る強気のサインを示しながら、RCI でも**短期**の上昇が強気維持を示す**長期**を上回っている。ただ日足と **10 日移動平均線**の乖離が拡大しており、7800 円を超えると目先買われ過ぎの域に入る事から、目先調整安には注意したい。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,271,000 円(2022 年 4 月 11 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 36,080 円(2022 年 4 月 11 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会が開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30) 証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター <https://www.nisshokyo.or.jp>